

レースって良いよね
第16回「魂の音楽」の巻

いつもこのコラムでは何らかの形で話をレースに絡めてきたが、今回は全く関係無い。しいて言えば、第14回の「感動って何?」の続編に相当するかもしれない。

私は音楽をこよなく愛している。よく履歴書の「趣味特技」の欄に体裁よく音楽鑑賞とか書かれている場合が多々見受けられるが、私の場合は本当に音楽が無いと駄目だ。鮫が常に動いていないと死んでしまうのと同じく、私も音楽を取り上げられると生きていけないのである。好きなジャンルは特にない。クラシック、オペラ、演歌、ポップス、ロック、ヘヴィメタ、レゲエ、R&B、ハウス、ジャズ、民族音楽、とにかく何でも聞く。それぞれに素晴らしい魂を持ち、心を動かされる何かがある。あらためて買い集めたCDなどを見てみると、ある共通点があることに気付いた。それは、ほとんど(97%に匹敵)が洋楽であるということだ。別に日本の音楽が嫌いな訳じゃないし、何ら差別もしていないが、結果的にこうなったのだろう。ただ、あえて言うなら邦楽からは魂を感じる機会が少ない。最近流行りのどの歌も特徴が有る様で無い。確かに聞いていてテンポもよく、上手く耳に入っては来るが、心には残らない場合が多い。これらは丁度ファーストフードの味にも似ている。でも、そんな中でもたまに「おや?」と思わず聞き入る歌もあるのも事実。ちなみに、<ウタダヒカル>と<クラキマイ>はよく比較されるが、どちらも歌はすこぶる上手いけど、私は<クラキマイ>の方がより魂を感じる。皆さんはどうだろうか? ところで、今回のタイトル、「魂の音楽」として私が最も愛する一曲がある。あらゆるジャンルの、大好きな音楽の中でまさに唯一無二の存在。

Sarah Brightman(Sop.) & Andrea Bocelli(Ten.) の歌う「Time to say Goodbye」

かつて、富士重工のTVCMでBGMとして使われていたことがあるからご存知の方も多はず。全編ほぼイタリア語で歌われているので歌詞は対訳を見なければ分からない。だけど、とにかく歌にスゴイ力があるのだ。初めてこの歌を聴いたとき、涙が止まらなかった。自分でも不思議なくらい泣けた。きっと好きな歌や曲はこれからも増えると思うけど、この歌だけはその座を明渡すことはないだろう。「感動って何?」の最も単純にして明快な答えがこの歌に秘められていた。